

株主の皆様および関係者の皆様、

本日当社は、平成23年3月期通期の業績について下方修正の発表をさせていただくとともに、今期末の配当を見送りさせていただく見込みを発表させていただきました。皆様のご期待に添うことができず、心よりお詫び申し上げます。

修正発表の資料にもございますとおり、我が国の風力発電業界は、新エネルギー導入に対する補助金の新規募集の中止、続いて補助金制度自体の廃止という事態に直面し、一方で検討されている再生可能エネルギー全量固定価格買取制度の導入との間に大きな時間的なギャップが生じております。その結果、新規の風力発電所開発案件が軒並み足踏みせざるを得ないという異常な事業環境に陥り、風力発電所開発事業の売上激減によって平成22年3月期は赤字に転落するという事態となりました。

今期に入りましても上記の国内環境は変わらず、当社はそのような状況の中で、これまで培ってきたスマートグリッド技術を海外に展開する事業に全社を挙げて注力し、平成22年3月にはマレーシアにおけるスマートグリッドシステムの受注を獲得したほか、今期に入ってから、スコットランド向けのパイロットプラントの受注を獲得するなど、電力需要の急激な拡大に伴う不安定な系統運用に課題を持つ国々や地域、或いは、不規則な出力を持つ自然エネルギーの大量導入を図りその出力の有効な制御技術を必要としている国々が、当社の技術に強い関心を示しております。

今期こそは社業をもって皆様に還元させていただけますよう、誠心誠意営業努力を続け、マレーシア案件における現地でのシステム稼働に向けた業務の推進、ならびに新規の受注獲得を進めて参りました。しかしながら、平成22年6月に会計監査人変更、平成22年3月期の有価証券報告書提出遅延が発生し、それらの対応に全社を挙げて数ヶ月以上要したことによりマレーシア案件では現地での交渉進展に注力できる体制作りが遅れました。そして結果的に最終納入先であるマレーシア政府との間でのシステム稼働のための現地納入、設置の契約手続きに遅れが生じ、現時点で、システム稼働時期が遅延する公算となりました。

同様に、他の海外案件につきましても当初の計画に遅れが生じておる状況となっております。現在は社内一丸となりまして、遅れを取り戻すべく全力で各案件の推進に当たっておりますが、今期の売上計上については性能検収というプロセスを考慮いたしますと大変厳しい状況と云わざると得ません。

株主の皆様および関係者各位に大変なご心労及びご迷惑をおかけした有価証券報告書提出遅延に加え、今期の営業成績までご期待に添えない見通しとなり、代表取締役社長として誠に申し訳なく皆様へのお詫びの気持ちで一杯です。国内の風力発電業界及び当社を取り巻く環境は引き続き厳しい状況が続きますが、私をはじめとする役職員一同、株主の皆様よりいただいておりますご支援を何としても早い段階で還元させていただけるよう、事業環境の好転、営業活動の推進、発電所の効率的な運営など各分野において全力をもって邁進して参る所存です。

株主の皆様、そしてご関係の各位におかれましては、引き続き変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますよう、何卒、よろしく願い申し上げます。

平成22年11月12日

日本風力開発株式会社

代表取締役社長

塚脇 正幸